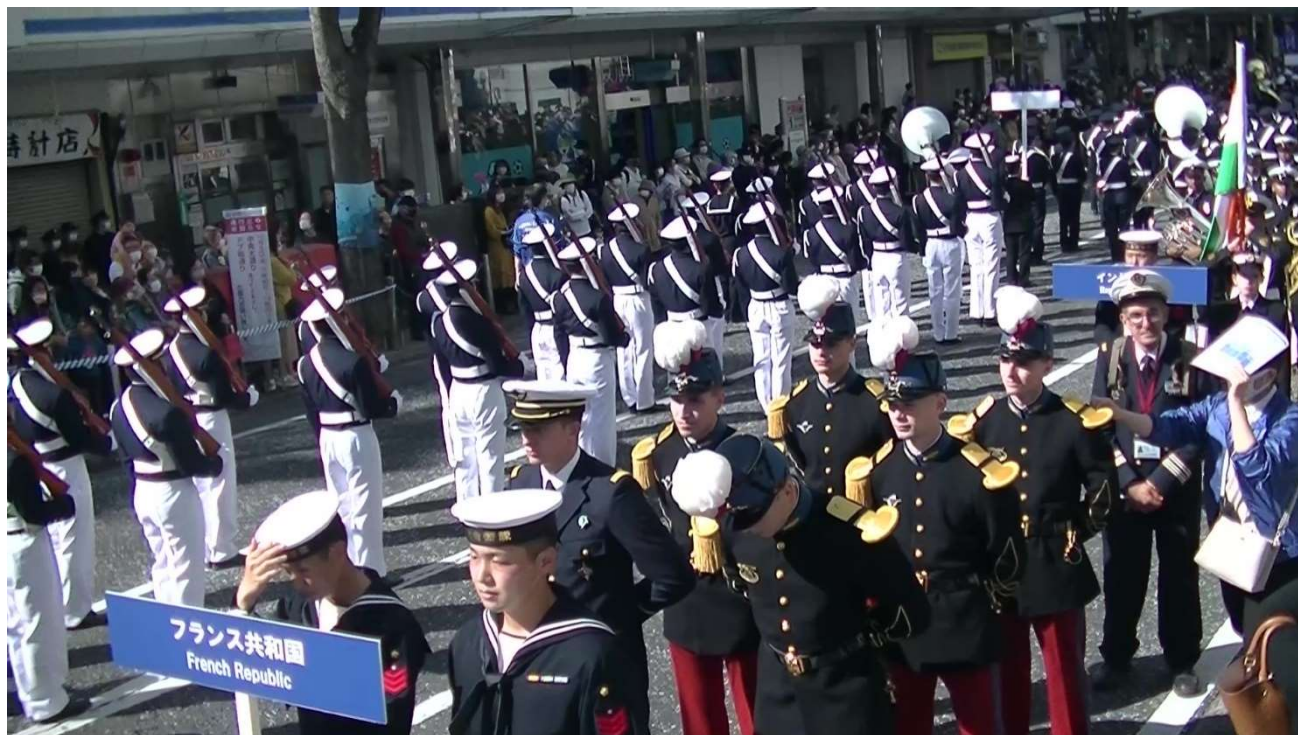


# 自衛隊は何をしているのか



11月3日、国際観艦式2022横須賀パレード。左側、小銃を肩に掛けているのは防大の儀仗隊、約30人。儀仗隊だから小銃の模型で本物ではないが、ドキッとさせられる光景だった。右側はフランスの部隊。艦艇の派遣はないが、軍人だけがパレードに参加した。その後ろはインドの部隊。

## 韓国海軍は補給艦昭陽(ソヤン)を派遣、パレードには参加せず

11月3日7時44分、Jアラートがテレビを「占拠」して、長々と続きましたが、横須賀パレードは何事もなかったように、予定通り行われました。「神奈川新聞」は、横須賀市の発表として観客3万人と報道していますが、そんなにいたかなあ、という感じでした。全体を見渡していないので正確なところはわかりませんが。パレードの出発時に、沿道の市民から拍手が沸き起こりました。でも、「万雷の拍手」というわけではなく、している人も、していない人もいました

海上自衛隊の音楽隊は、東京、横須賀、呉、舞鶴、佐世保、大湊が参加、つまり全国動員。6つの音楽隊とも1曲目は軍艦マーチを演奏しました。海自は「伝統墨守唯我独尊」と評されることもありますが、軍艦マーチの連続にはいささかうんざり。陸自中央音楽隊、空自の航空中央音楽隊も参加。

自衛隊の他に、横須賀市立横須賀総合高校吹奏楽部、横須賀市消防団音楽隊の参加、横浜Fマリノスの公式チアリーダーチーム・マーメイズが参加。



いまのところ動員と言うほど大げさなものではないけれど、海上自衛隊に一步踏み込まれてしまいました。

海自は10月29日から11月13日までの2週間を「フリートウィーク」(艦隊週間)と名付け、さまざまなイベントを行うとしている。9月29日30日には海自艦艇の一般公開が横須賀、横浜、木更津、船橋などで実施、11月3日には横須賀では外国艦艇の一般公開が、横浜港ではヘリ空母「いずも」をはじめとする海自艦艇の航海が行われました。

10月29日、新聞各紙は防衛省が米海軍が運用している長距離巡航ミサイル・トマホークの購入を検討していると報道。23年度防衛予算で量産に入るとしている12式地対艦ミサイルとともに、自衛隊はさまざまな長距離

攻撃兵器を保有しようとしています。こうしたハードな装備の調達と、横須賀パレードのような市民へのソフトな浸透は、今後も続いていきそうです。11月5日、海自と外国艦艇は次々に横浜、横須賀を出港し相模湾へ。11月6日朝、ヘリ空母「いずも」と「ひゅうが」も横須賀を出港しました。

写真上 大滝通りに掲げられたパレードのアーチ。写真中 マーメイズの子供たち

写真下 10月30日のデモで市民と海上自衛官、艦艇見学者に訴えました。海上でヨコスカ平和船団も





## 横浜港を「占拠」した海自艦艇－飛鳥Ⅱとヘリ空母「いずも」が大栈橋

山下埠頭に停泊する大型揚陸艦「くにさき」。背景はベイブリッジ。呉を母港としているが、観艦式参加のため横須賀長浦港の潜水艦栈橋に接岸、その後、韓国の補給艦昭陽に場所を譲るためか、横浜に移動してきた。甲板上には、装甲車らしき車両がならんでいた。いつの間に積んだのか？ イージス艦「あたご」(DDG177)もフリゲート艦「もがみ」(FFM1)も山下埠頭に停泊。潜水艦「たいげい」は新港埠頭に。





国際観艦式参加艦艇中、最大の補給艦ナスル(A47)。「朝鮮日報電子版」(22年10月25日付)は22,000トンと報道。10月25日にフリゲート艦シャムシール(2,600トン級)とともに韓国海軍作戦司令部釜山作戦基地に入港。1983年の韓国とパキスタンが修交して以来、パキスタン海軍の入港ははじめてだという。どういう意図があったのだろうか。パキスタン海軍(31,000人)といえば、2002年から2010年まで海自が行ったインド洋給油作戦において、アメリカ海軍と共に最後まで「海上阻止行動」に艦隊を派遣し続けたことが印象に残っている。

#### 朝鮮半島では緊張激化—原子力空母の次は戦闘機部隊で米韓合同演習-朝鮮(DPRK)は弾道ミサイル連発

11月1日横須賀入港だから、釜山出港はおそらく前日の10月31日。この日から、航空部隊を中心とする米韓合同演習ヒジラント・ストームがはじまった。韓国聯合ニュースの報道によれば、「韓国空軍の最新鋭ステルス戦闘機、F15K、KF16、空中給油機 KC330 など約 140 機と、米軍の F35B や電子戦機 EA-18、高高度偵察機 U2、空中給油機 KC135 など約 100 機の計約 240 機が参加した」。さらに、米軍は11月5日、爆弾を最大54トン搭載し、マッハ1.25で飛行するB-1B戦略爆撃機2機を追加派遣した。力で朝鮮を屈服させようとする戦略は、緊張を激化させるだけで何も生まない。(写真左下 パキスタンの軍楽隊、白い制服の部隊)



朝鮮(DPRK)外務省は10月31日、「朝鮮民主主義人民共和国に反対する米国の核戦争シナリオが最後段階に入ったことを如実に示している」「世界のどこにも、期間と規模、内容と密度において米国と追随勢力が行っている合同軍事演習のように侵略的性格が明白な

軍事訓練は見られない」「世界で唯一無二に主権国家の『政権の終えん』を核戦略の主要目標にしている米国は、朝鮮民主主義人民共和国に対する武力使用を謀る場合、自分らも対等な代償を払うことになるということを覚悟しなければならない」「外部の軍事的威嚇から国家の自主権と人民の安全、領土保全を守り抜くために必要な全ての措置を履行する準備ができており、米国が引き続き重大な軍事的挑発を仕掛けてくる場合、より強化された次の段階の措置を考慮することになるであろう」としている。

弾道ミサイルの発射を止めさせようとするならば、圧倒的に優勢な通常戦力をもつ米軍が、威嚇的な軍事演習をまず、止めるべきである。

## 参加国中最多、4隻の艦艇を派遣して来たオーストラリア

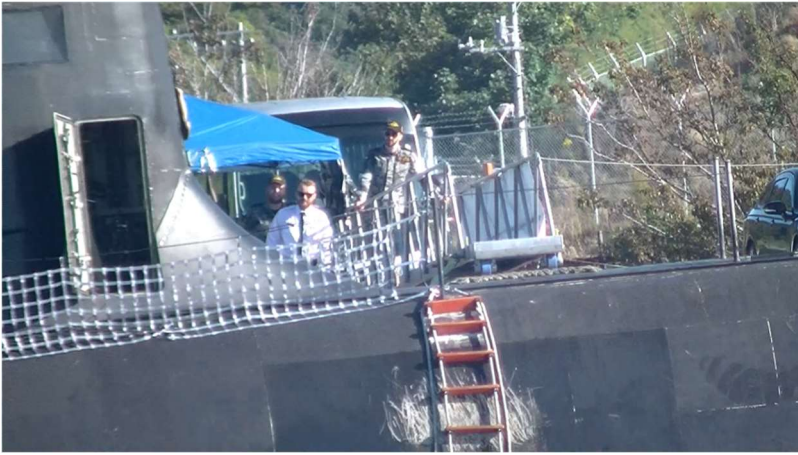


2021年9月、米国、イギリスと新たな軍事協力の枠組み、オーカス(AUKUS)を結成したオーストラリア、今回4隻の軍艦を派遣してきた。写真上は2021年に就役したばかりの大型補給艦ストールワート(満載排水量19,500トン、全長174m、乗組員122名)、11月2日横須賀に入港してきた。



今回の観艦式で痛感させられたのは、オーストラリアをはじめ、韓国、パキスタン、ニュージーランドの4ヶ国が大型補給艦を保有し、外洋で諸外国の軍艦に、もっと言えば米国の指揮下に艦隊を組んで補給し合うだけの装備を保有していることだ。

写真左は、オーストラリアのイージス駆逐艦ホバート。6350トンと軽量だが、ミサイル垂直装置(VLS)は48セル搭載。ミサイルSM-6をすでに搭載し、対地攻撃も可能である。



潜水艦ファーンコム乗組員。横須賀長浦港で。オーストラリアだけが潜水艦を派遣してきた。さらに、11月2日に佐世保に入港したフリゲート艦アルンタが、5日、直接、観艦式会場の相模湾にやってきた。



#### 韓国海軍の補給艦昭陽

11月1日入港。10,105トン、190mの大型艦。長浦港の潜水艦棧橋に停泊。パレードには参加せず、街をあるいている乗組員の姿も見なかった。日韓関係の現状を反映して、静かにしていたということだろうか。

カナダ、9月20日に台湾海峡を通過したバンクーバーなど2隻を派遣



写真上 カナダ海軍のフリゲート艦、左がウィニペグ、右がバンクーバー(5,032トン、全長134m)。

# 日米共同統合演習キーンソード 23 と連動する国際観艦式

厚木基地も使われる!!! インド軍の哨戒機 P-8I が 11 月 7 日～16 日、オーストラリア軍の哨戒機 P-8A が 11 月 7 日から 22 日まで機体整備のため使用。カナダ軍の C-17 大型輸送機も 11 月 5 日から 7 日、19 日 20 日に使用

## 「K e e n S w o r d 2 3」について 10 月 21 日 統合幕僚監部発表

自衛隊と米軍は、下記のとおり令和 4 年度日米共同統合演習（実動演習）を実施します。本訓練は、強固な日米同盟の下、日米双方が主要装備品を使用した演習を行う中で、日米の即応態勢を確認し、相互運用性を向上させるものです。自衛隊と米軍は力による一方的な現状変更の試みは断じて許さないという強い意志のもと、あらゆる事態に対応するための抑止力・対処力を強化し、我が国の防衛及び地域の平和の安全の確保に寄与していく考えです。

### 1 演習の目的

グレーゾーン事態から武力攻撃事態等における自衛隊の運用要領及び日米共同対処要領を演練し、自衛隊の即応性及び日米の相互運用性の向上を図る。

### 2 実施時期 令和 4 年 11 月 10 日（木）～ 11 月 19 日（土）

### 3 主要実施場所

自衛隊施設、在日米軍施設、津多羅島、奄美大島、徳之島、我が国周辺海空域等 ←与那国島でも

### 4 主要訓練項目

- (1) 水陸両用作戦 (2) 陸上作戦 (3) 海上作戦 (4) 航空作戦 (5) 統合後方補給
- (6) 特殊作戦 ←今回新たに加わった
- (7) 宇宙、サイバー及び電磁波に関する領域と従来領域の連携

### 5 演習参加部隊等

#### (1) 自衛隊

ア 統合幕僚監部、陸上幕僚監部、海上幕僚監部、航空幕僚監部、情報本部及び  
自衛隊サイバー防衛隊 ←今回初参加

イ 陸上自衛隊 陸上総隊、各方面隊等

ウ 海上自衛隊 自衛艦隊、各地方隊等

エ 航空自衛隊 航空総隊、航空支援集団、宇宙作戦群等 ←今回初参加

#### (2) 米軍

インド太平洋軍、太平洋陸軍、太平洋艦隊、太平洋空軍、太平洋海兵隊、在日米軍、宇宙軍等

#### (3) その他

一部の訓練に豪・加・英軍艦艇、豪・加軍航空機が参加予定

### 6 演習参加規模

(1) 自衛隊：人員約 26,000 名、艦艇 約 20 隻、航空機約 250 機

(2) 米軍：人員約 10,000 名、艦艇 約 10 隻、航空機約 120 機

(3) 豪軍：艦艇 1 隻、航空機 1 機 ←観艦式参加艦艇が横滑りで参加でしょう

(4) 加軍：艦艇 2 隻、航空機 1 機 ←観艦式参加艦艇が横滑りで参加でしょう

(5) 英軍：艦艇1隻

7 その他

(1) 日米共同統合演習は昭和60年度に開始され、概ね毎年、実動演習と指揮所演習を交互に実施。実動演習は今回で16回目にあたる。

(2) 豪州、加国、仏国、印国、NZ、比国、韓国、英国及びNATOからオブザーバー招聘予定

● KeenSword21(2020年)と23(2022年)の比較 ●

	自衛隊			米軍			演習場所
	人員	艦艇	航空機	人員	艦艇	航空機	
2020年	37,000人	20隻	170機	9,000人	記載無	記載無	種子島、臥蛇島
2022年	26,000人	20隻	250機	10,000人	10隻	120隻	津多羅島、奄美大島、徳之島

与那国島でも訓練実施!!! ■住民に怒りや不安 「拒否したい」「避難計画が先」

【与那国】「納得できない」「避難計画が先」一。来月11日から始まる日米共同統合演習で与那国駐屯地が米軍に使用される予定のあることに、町民からは不安や反対の声が上がっている。

祖納の70代女性は「自衛隊が来た時点で入ってくることを想像はしていたけど、こんなに早く受け入れるのかという気持ち。拒否したい」と怒り心頭。「自衛隊に反対してきたのに米軍も受け入れるとなると、(保革共闘で誕生した現政権の)革新側も離れていくのでは」と話した。

久部良の30代男性は「軍事訓練の前に、住民避難計画やシェルターをどうするかなど先にやることは他にある。何でも受け入れるとなると、民意は置いてきぼりになり、住民は納得しないだろう」と首をかしげる。

祖納の40代男性は「1回大丈夫となると、民間の空港も使ったりしてどんどん入ってくるようになるのが一番怖い。台湾情勢もあるから、(中国を)挑発することになれば、攻撃対象にもなりかねない。台湾有事が来たら、本当に危険になる」と危機感を募らせる。祖納の50代女性は「自衛隊の時も国が決めたことだからと最後は結局その通りになった。今回も町民が反発しても、町が承諾すれば仕方がないのかなと思っている」と諦め気味だった。(「琉球新報デジタル版」10月26日より)

種子島でも21年の自衛隊統合演習に続き、またしても

令和4年度方面隊実動演習(西部方面隊)(後段)の概要について

- 1 目的 島嶼侵攻事態対処に係る演練を実施し、各種事態への対処能力の向上を図る。
  - 2 期間 令和4年11月10日(木)～11月19日(土)
  - 3 場所 鹿児島県種子島(中種子町及び南種子町)、海上自衛隊小松島基地及び四国南海域
  - 4 担任官 西部方面総監 陸将 竹本竜司
  - 5 演習実施部隊 西部方面隊、陸上総隊・中部方面隊の一部
  - 6 特色 (1) 島嶼侵攻事態対処に係る演練を実施し、抑止及び対処の実効性を向上させる演習  
(2) 生地を使用し、実際的環境下において島嶼侵攻事態対処を演練する演習
- 「自衛隊は何をしているのか」編集委員会(代表木元茂夫) 連絡先 email [p3cp1@yahoo.co.jp](mailto:p3cp1@yahoo.co.jp) ----